

気まぐれ 切手帖



2012年5月更新

- 2012年5月

4月はえっちらおっちら、少しづつ袋に入れっぱなしになっていた切手を国別×年代順の整理に勤しんだ。何だか見通しが出てきた感じがするし、そもそもゴチャゴチャになっていたものの整頓ができると少し嬉しい気分になる。が、作業を繰り返しても、入れっぱなしの袋はなかなか減らない。よくぞこれまで集めたね、自分よ。

- 2012年3月

毎月、ふーふーしながら作っていた「切手の日誌」が力尽き、それでも何かを作りたく、また始めてみる。こういう感じに、漠然とでも何かをまとめようとして、何かが生まれてくることを期待して、と欲深いことを考えているから、結局何も生まれずに終わってしまう。わかっている、懲りずにやる。

物心がついたときには、沖縄はもう日本だった。

という私の思いは別に、もはやデット・カントリー入りしている沖縄切手。



沖縄は夏に行くのが好きであるが、どうしても灼熱の光の下に物悲しさが漂うのが、どこことなく悲しくて惹かれてしまう。

気づかぬうちに切手が集まり、やがてストックブックに収まらなくなってしまった。紆余曲折を経て、とうとう日本切手マイ・コレクションを解体することを決心する。1960年代～80年代くらいまでは、ノスタルジーと自分の思い出などで、かなり心惹かれるものが多かったが、ふるさと切手が発売されるようになってから、収集熱が失せる。何だか、安直な図案が増えたような気がして。

という訳で、気前よく処分していたのであるが、今度は処分ばかりしているうちに「おっ、ふるさと切手ででも、素敵なものもあるではないか！」と改めて気づく。そして、ざざっと気に入ったものを何枚かトレード（処分）要員から救い出したのがこれらです。



とにかく「気に入った」というだけで選んだものであるが、どうも日本画調のが好きなようである。こうしてみると、我ながら惚れ惚れする。詳細はまた追々、ということで、取り急ぎ救出したお気に入りをご紹介します。ふるさと切手もいいですね？

同様に、急遽トレード要員から1軍入りした切手がこちら。1996年のふみの日切手です。これ以降、ふみの日切手はキャラクター頼みの安直なシリーズと成り下がってゆくが、このころまでは、まだ知恵を絞っていると感じている。



結構オーストラリアに集中した。



1937～1986年発行から、動植物（鳥が多い？）を集めてみた。



こちらは比較的最近の1996～2009年発行から。やはり文化より自然ネタが美しいかな。

いずれ紹介したいですが、切手としてはスポーツ（オリンピックやテニス）や俳優（映画ネタ）絡みも少なくない。とにかく、何だかオーストラリアという国の存在感をアピールしているところが（個人的には）好ましい。

今月はがっつりオーストラリアに取組んだ。最初はつまない切手...と文句言いながらも、50年代後半から直近まで眺めてみると、意外な特長が感じられた。詳細は追々ながら、まずは全体像をどどんと。



1963年～1982年から50枚。

船と描かれている開拓者（冒険家?）、クリスマス、鳥類、小動物、そしてエリザベス女王さま。



これはフットボール?だか、ラグビー?だかの100周年記念、1996年発行16種類完。スポーツも似合う国である。



1983～1994年からの50種。今度は魚類とカンガルーなどの動物、そしてLiving Togetherと書かれた共存？をテーマとしているレジャー系のシリーズ、そしてまたスポーツ etc
とにかく、シンプルで全く凝ったつくりではないが、その分かりやすいテーマとシンプルなところに注目して集めると意外と楽しい。

かつて東欧はCTO(Cancel to Order)と呼ばれる注文消を外貨獲得の目的で輸出していたのか、未使用だけど消印つき、状態は良いけど何となく人工的な切手がわりと簡単に手元に集まってくる。正直、チェコ以外の東欧の興味は薄かったのであるが、こうして花ばかりを集めてみると、その少しケバいい人工的な感じが可愛らしいかも。



次は宇宙関連ばかり集めてみようかと検討中。私の意識では東欧切手＝プロパガンダだから、自国アピールの下心のせいか、結構スポーツやら宇宙やら有名人切手がある。

最近のイギリス切手はエッジ(?)が効いていて、なかなか格好良いと思うのだが、思うように手元に集まらない。これは1999年、2000年にミレニアム記念として発行された（よくわからない）シリーズからの抜粋。



正方形の切手は訳もなく好き。

こちらは、手元のコレクションから皇室関係ばかりを集めてみた。



今年はJubilee、ダイヤモンド・ジュビリー、つまりエリザベス女王即位60周年ということで、またいろいろ切手も発行されるだろう。がっつり取組めば面白いテーマだと思う。だけど、私はイギリス以外の皇室切手の方がマイナーで興味がそそられる。だけど、Jubileeという言葉とその響き、どこことなく神秘的。

ヨーロッパ諸国が同じテーマで国ごとに発行しているEUROPAシリーズ（勝手に命名）。お国柄が出ていて私はこういうの好き。



EUROPA切手、まずは1957～2008年より。コレクション整理したら、もっと増える見込み。



こちらは1956～2006年。整理したらポロポロ出てきました。

他、まずはヨーロッパを代表(?)する旧西ドイツの切手も紹介しておく。



こちらは1955年～1963年発行から、愛想はないが何だか無駄のない図案。



引き続き、1964年～1969年発行。少し色付き始めてくる。



こちらは毎年発行されていた福祉シリーズから（1959～1972年発行分）、福祉なんてドイツらしいテーマかと。



最後に1964年発行の都市シリーズ12種完、50年近く前でこのデザイン、各都市の特長は出ているのだろうか。ドイツには2度行ったことあるが、石を感じさせる建築物が多く、身体が大きい人々の国だと思った。

一括りにしてしまうには、範囲が大きいと思うが、細かく分けて縛られるのも嫌なので、適当にやってゆきます。今回紹介するのは、ハード型のフランス切手とオランダのクリスマス切手。どれも強い思いはないのですが、「全部集めたい」と理由のない動機に後押しされ集めてしまいます。

2000年から毎年グリーティング（バレンタイン？）を狙って発行されているのでしょうか。フランスのブランドがモチーフされていますが、改めてその知名度を実感させられる。だけど、やはり惹かれるものがある。



実は、こんなのも持ってました。これはお土産にいただいたもの。イブ・サン・ローランですね

。



"Le Cœur
ne me quitte
jamais"

Yves Saint Laurent



© 2000 YSL

次は2004年と2008年オランダ発行のクリスマス切手。日本の年賀状同様、多くのクリスマスカードが行き交うのでしょうか。そうであれば、全種類集めたいかなるかしら。



下段の2008年は、全部集めて1枚の絵になります。